



(シンボルマーク)



(校章)

宮城県迫桜高等学校同窓会

迫桜同窓会報

編集・発行 迫桜高等学校同窓会広報部会 発行日 平成29年7月4日
〒989-5502 宮城県栗原市若柳字川南戸ノ西184 TEL0228-35-1818
迫桜高校ホームページアドレス <http://www.hakuou.myswan.ne.jp/>

ぜひアクセスを!!

二十周年記念事業の 早期取り組みについて

同窓会長 菅原 孝
(若高 昭和三十四年卒 旧姓門馬)



同窓会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会の事業、運営にあたりご支援、ご協力をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

会員皆様がすでにご存知のとおり、平成二十九年年度高校入試では定員オーバーの応募があり、定員の二百名が入学しました。中学卒業生が毎年減少する中、近隣の多くの高等学校が定員割れであり、栗原市の高等学校の学級減や再編統合が問題になっている時、一学年五学級定員二百名が維持されたことは意義深いものがあり、喜びとするものであります。学校当局の近隣中学校への働きかけはもちろんのこと、指導する教職員の



総会



東京支部総会



仙台支部総会



皆様の尽力、在籍する生徒諸君の努力の成果の賜物と思っております。会員のお子さん、お孫さんへの迫桜高校進学への勧め、支援も大きかったと思っております。現状維持に満足することなく、学校と同窓会が一体となり、実績を積み上げなければなりません。さて、東京オリンピックが開催される平成三十二年には迫桜高校創立二十周年を迎えます。その記念として実施される事業として、十周年記念と同様と考えれば、記念式典、記念誌発行、同窓会名簿の作成が挙げられます。特に同窓会名簿の作成は個人情報保護の制約もあり、会員皆様のご協力がとても大切です。迫桜高校卒業の同窓生も三千名を超えました。しかしながら、同窓会本部においても彼らの消息を掌握していません。名簿の発行により社会のどの分野で活動、活躍しているかが明らかになってきます。また、そのことに期待と楽しみが含有されています。栗原、若高、迫桜同窓生の三位

「迫桜高校生の発展のために」

校長 牛 来生 人



今年四月に迫桜高校へ赴任いたしました校長の牛来生人(ごらいくと)と申します。よろしく申し上げます。

校長室には栗原農業高等学校、若柳高等学校、そして迫桜高等学校それぞれ歴史の長い写真が並んでおり、百年を超える大きな積み重ねの上に本校が成り立っていること、数多くの同窓生の皆様方、地域の皆様方の善意と期待に支えられていること、そして私たち教職員の担うべき責任と使命感を改めて実感しております。

一体の活動も可能になってきます。本年度は役員改選期に当たり、私は身を引くことにしました。浅学非才な私を四年間支えてくださった多くの会員の皆様に感謝と御礼申し上げます。後任には菅原恵一さんを推挙いたします。行政経験が長く、同窓会副会長として、当番制の導入など同窓会の活性化のため中心的に活動していただきました。二十周年記念事業の推進にも最善と考えます。八月五日の総会にはご支持、ご支援よろしく願います。

総会の後の懇親会におけるアトラクションも楽しみの一つです。本年度は佐藤征司さん(昭和34年栗原卒 石越出身)をお招きします。鳥根県の郷土芸能安来節踊り(どじょうすくい)の名取りであり、同郷土芸能銭太鼓(民族楽器)の演奏の名手でもあります。当日の熱演が期待されます。同級生の皆さんも応援にそろってご参加ください。

ます。

さて、今春の卒業生は四年制大学に二十一名、短期大学十四名など進学八十六名、公務員十三名、民間就職六十八名の就職八十一名を果たすことができました。栗原市やロータリークラブと連携した国際交流等も順調に行われました。同窓生の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。また、平成二十九年年度高校入試では、二百名の定員を満たすことができました。昨年、この紙面をお借りしてお伝えした定員充足の取り組みが形となったこと、本校の教育活動が地域の皆様にご理解いただいたことと安堵しております。

本校は、二つの学校の歴史を踏まえ、単位制総合学科として生徒の自己実現に向けた様々な取り組みを続けております。これらは量的にも質的にも一つの高校がやりきることが困難なものです。多くの方々からご支援を受け、生徒への直接間接のご指導をいただいております。多様化し、混迷化する現代社会において、本校の役割はさらに増していきと考えておりますが、その責務を果たすためにも、同窓会との強い連携が不可欠であると痛感しております。

未熟な入学生が三年間の活動を経て、立派に社会に巣立っていきけるよう、皆様方からのご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

同窓会活動への協賛金のお祝い

ゆうちょ銀行口座記号番号 02260-1-113366
口座名称(漢字) 宮城県迫桜高等学校同窓会
口座名称(カナ) ミヤギケンハクオウコウトウガッコウドウソウカイ
※一口1,000円です。何口でも結構です。
※ご芳名と卒業年月日をご記入ください。

平成29年度

同窓会総会

期日 8月5日(土) 14:00~ 受付13:30~
場所 若柳ドリーム・パル

懇親会費 ¥3,000

※会員券は支部長からお求め願います。(不足の場合は当日券でお願いします。)

●今年のアトラクションは、迫桜高校合唱部と安来節踊り名取り・銭太鼓名手の石越出身 佐藤征司さん(昭34栗原卒)をお招きします!! お楽しみに!!



入学式



図書室



田植え



支部総体



迫桜祭

支部だより



志波姫支部長
高橋利昭
昭和35年卒
栗農 (栗原市志波姫在住)

『子どもたちと卓球を楽しみ!!』

生涯スポーツとして卓球を楽しみながら、スポーツ少年団の子供たちと一緒に練習しています。

志波姫には早くから総合型地域スポーツクラブが設立され、卓球スポーツ少年団もその構成員であり小学生中学生合わせて二十名ほどの団員が加入しています。毎日十九時から二十一時まで、土曜日は午後から、日曜日は午前中すべて自由参加です。

小生の担当は、小学生や中学生の入り部した初心者を対象に基本的な練習の指導で、段々力をつけてくると若手コーチの指導を受ける仕組みです。

さて、小生、小中学校時代は背が低く細身の身体でありながら、野球一筋の真っ黒に日焼けした少年でした。それが農家の長男がゆえに、必然的に栗原農業高校への入学…。

野球部へ入部するつもりでしたが、先輩の話を聞くと「栗農野球部は残念ながら、出ると負けの状態のこと…。」

そんなことから、先輩の勧めもあって卓球部に入部しました。(ラケット、シューズ、ユニホームさえあればお金がかからないとのこと)

入部してみると、覚悟はしているとはいえ大きなハンドがありました。中学校で卓球をしてきたのが多数で、小生のごとく初心者は二人のみでした。とにかく必死で追いつくためラケットの素振り、フットワーク、サーブ等を繰り返し練習しました。家に帰ってからも窓に映し出される姿を見ながらフォームの確認をしていました。

二年生の夏ごろに、仲間みんなに何とか追いついて対等に打ち合うことが出来るようになりました。栗原登米地区予選では、団体・個人で県大会出場を果たすことができ、夢の夢が実現しました。これも先輩や後輩の力が大きかったと

思っています。

栗農で部活動をした卓球が、いまはスポーツ少年団の孫たちと共に汗を流しながら運動しています。技術を覚えるために日本で開催された「世界卓球選手権」を観戦し、中国選手の強さを目のあたりにして感動しました。また、高校生の試合を見てレベルの高さを実感しました。もうちょっと子供たちと続けてみたいと思っている昨今です。



盛岡支部
川村匡世
昭和59年卒
(盛岡市在住)

盛岡支部について

同窓会原稿依頼をいただき、感謝いたします。

現在は私立大学職員として働いております。実家には老々介護をさせながらの生活をしております。

盛岡支部の事務局のお手



平成29年2月28日、第16回卒業生の同窓会入会式が、本校アリーナに於いて行われました。菅原孝会長より171名の入会が許可された後、会長より激励の言葉が於いて特別に3力年間の高校生活を模範的で顕著な活動をした3年3組三浦稜士くんに対して、迫桜賞(賞状と盾)が授与されました。更に、全卒業生に対して卒業記念品として、卒業証書ホルダーが贈呈され、最後に3年5組佐藤明日香さんが新入会員を代表して誓いの言葉を述べました。

伝いをさせていたでいてから早十年が経過しようとしております。懐かしい若柳の風景を思い起こし、当時の先生方(遠藤和秀・三浦章孝先生の時代でした)を思い出し後輩諸君の活躍の様子を拝見しております。

盛岡支部には、栗原農業高等学校・若柳高等学校・迫桜高等学校の七十名の卒業生の方々がいらっしゃいます。三十年も前から栗原農業高等学校・若柳高等学校の先輩方は交流を続けてこられたようです。

しかし、近年は高齢化が進み、また十年前に頂いた情報が最後であることから会員の方々の掌握しきれずにおります。

毎年十一月初旬に同窓会総会という名の食事を実施しております。十名集まることを楽しみにしての集いです。先輩方は、すごい方ばかりです。

二年間の写真をご覧くださいませ。



恩師登場



迫桜高校
平成13年~16年度
古内世紀先生
(遠田郡美里町在住)

迫桜勤務の思い出

小牛田の田園から遠く残雪に映える栗駒山を望む時、かつて毎朝この山を眺めながら迫桜高校に通動していた頃を思い出します。

私が勤務したのは十六年前の開校初年度からわずく三年間ですが、それは大変中身の濃いものでした。

同校はご承知の通り、進行する少子化に対応すべく、若柳高校と栗原農業高校の伝統ある二校を統合し、かつ一年次からは総合学科という新しいコンセプトの下に船出した学校でした。

六学級六系列の総合学科という新システムの中で、年次主任としても戸惑いと模索の連続でした。私ども教員に求められたことは、生徒一人一人が複雑なカリキュラムの中から、「自己」職業・上級学校への理解を深めながら、希望する進路・夢の実現に向けて適切な選択ができるよう導くことでした。

学力や資格を習得させること、社会人として必要な協調性や表現・発表能力を身につけさせること等でありました。そのため、通常の科目の他に、『産業社会と人間』や『総合的学習(ドリカムゼミ)』の時間

がありました。

その具体的取り組みを思いつくままに挙げれば、授業の充実は勿論、平日・土曜日・夏休み等の課外講習、各自のドリカムプランの作成と発表、図書館やコンピュータ等を利用しての職業や上級学校の調査・まとめと発表、企業見学や就労体験と発表、毎日の昇降口での朝の厳格な服装・頭髪指導等々…。これらを年次・各教科・各部の教員団と連携協力しながら行いました。年次の担任団も二人担任制の下で、始めは戸惑いも見られましたが、三年次の頃は息もピッタリ合いました。多忙で苦しい時もありましたが、今では懐かしい思い出です。

現在定年退職し気ままに過ごしておりますが、人伝えに卒業生や在校生の活躍する報に接した時は、とても嬉しい気持ちになります。迫桜高校及び同窓生の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、ペンを置きます。



卒業式



灯り展



修学旅行



ハロウィン (英語授業)



運動会

年に一度のクラス会

猪股 研

(栗農 昭和四十九年三月卒
登米市石越在住)



明治四
十一年生
まれの祖
父は、百

年記念碑に校歌の歌詞を書いた七代校長相澤庸治先生に学び、昭和五年生まれの父は、戦時中の勤労奉仕と軍隊教育に学び、昭和二十二年生まれの叔父は、昭和の高度成長期に学び、昭和三十一年生まれの私と三十四年生まれは、農業環境の変わりつつある時に学びました。平成三年生まれの息子は、迫桜でIT時代の近代的時代に学び、我が家では六名が学舎から社会へと巣立ちました。

土俵奪いでの上級生の楯となり勝利に貢献したものです。栗農は春夏秋冬には決まった行事がありました。まず春には田植え実習で全て手植えです。また、猪岡実習の手鎌での苦しい草刈、夏には同じく猛暑の中での草刈、夏休みは旧校舎で寝泊まりしたクラブの血のにじむような合宿、秋は収穫期で当然手刈りの稲刈り、果樹園では林檎と梨の収穫が一番の楽しみでした。年に一度の各クラスの戦いとも言えるべき体育祭、終盤に

ませんが、皆が開催の連絡を楽しみにしています。栗農の三年間の思い出は酒の肴にも代え難い大事なおかずです。最後の一人になるまで続けていこうではありませんか。

都会生活五十年、今ふるさとに戻り思うこと

桑野 典子

(若高 昭和三十八年三月卒
旧姓 蘆原 栗原市若柳在住)



昭和三十
八年度
若柳高校
の卒業生

振りかえりますと、永い年月が経ちました。今は三

会員 近況 報告

は校内全体での栗農祭、冬には一年の集大成とも言えるべき校内意見発表大会、そして心身を鍛えるべき恒例の寒稽古、寒く辛いからとズル休みする人はいなく、厳しさと節度の有り方を栗農の三年間で教えられたような気がします。

社会人になって先輩方と共に杯を交わす時は、在学時代の思い出を肴に一時を楽しく過ごす事ができます。加えて、我々Dクラスは年に最低一度はクラス会を開きます。全員の出席は叶い

予定とは少し違っ 職業に就きました

鈴木 文徳

(迫桜 平成十九年三月卒
岩沼市在住)

時が経つのは早いもので、迫桜高校を卒業してから十年余りが経過しました。私は現在、航空機部品を製造する会社に勤めています。

元々迫桜高校に入学したのは、自分で勉強したい分野を選択し履修できる総合学科だったから、というのが一番の決め手でした。入学後、選択したのは自動車科で卒業時には三級整備士の資格も取得しました。部活動は、すでに無くなってしまいました。自動

年間という「あつ」という間、一瞬に過ぎ去るよう感じますが、私の高校時代の三年間は、沢山の心に残る思い出がある三年間でした。生涯を通しての友ができる時もあり、又、年をとっても元気でいられる体づくりの時でもあったのではないかと思います。

勤務し、事務職を一貫してさせて頂きました。その後、結婚して専業主婦となり、二人の男の子の親になり、今では四人の孫に恵まれ、落ち着いた日々を過ごしております。

そして今、主人と二人で若柳に戻ってきて生活しております。野菜と花を作り、都会では味わえない、我が家で取れた取りたての野菜のおいしさ、どこを見ても視界の三分の二が空という解放感、きれいな空気、鳥のさえずり、永年都会生活をしてきたからこそ感じる大自然の良さを、今満喫しております。

私は、若高時代、テニス部に入っております。当時、栗農のテニス部の方達とよく練習試合をし交流を交わしておりましたが、今でもどこかで「ポーン」というテニスのボールを打つ音を耳にした時、なんともいえない懐かしさを感じます。高校を卒業して十一年間、東京の大手菓子メーカーに

栗駒山、迫川の土手の桜、伊豆沼の蓮の花、白鳥を始め渡り鳥の群、本当に素晴らしい自然がいっぱいの美しいふるさとです。

迫桜高校へは野菜の苗や鉢植えを時々買いに行っております。母校がありますことに感謝しつつ、迫桜高校の皆様、又、同窓生の方々の今後益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

部に入学し、ゴーカートを製作するなど活動してまいりました。毎日の勉強、放課後の部活動、友人達と過ごした日々は良き思い出です。迫桜高校を卒業した後は石巻専修大学へ進学しました。自動車についてさらに勉強でき、二級整備士も取得できると思い入学をしましたが、入学してすぐのオリエンテーションで「自動

車の関係する仕事は整備士だけではない」という説明に影響を受け、整備士の取得コースではなく機械について学べる機械システムコースを選択し卒業しました。

卒業後はアウトソーシングの会社へ入社、自動車部品の会社に技術者として派遣され生産技術の仕事をしたが、四年ほど経験しました。その後転職を決意し、生産技術の経験を生かして、現在の会社へ入社しました。



入社から一年後に、宮城県の企業を紹介する雑誌の記事に載っていたのを恩師である石川勝先生がご

少し羨ましくも感じました。高校時代に自動車の整備士になりたいと思っただけで、少分野の違う仕事をしてはいますが、自分の好きなことを職業にできている事を嬉しく思っています。

平成28年度卒業生進路状況

一、卒業生の進路決

●卒業生171名(男子81名・女子90名)

- 進学
 - 私立大学……………21名
 - 公立短大……………1名
 - 私立短大……………13名
 - 大学校……………5名
 - 看護系専門……………10名
 - その他専門・各種……………36名
- 就職
 - 公務員……………13名
 - 民間就職……………68名
 - その他……………4名

平成二十八年年度卒業生の進路状況は、記載のとおりです。

就職においては、生徒が積極的に就職活動に臨み、最後まで諦めずに頑張りました。また、求人数の増加による幅広い選択となったことや、栗原市主催のジョブフェアへの参加、ロータリークラブによる模擬面接なども、進路達成に大きなプラスとなりました。民間就職の人数は前年比からやや減じましたが、公務員が十三名と好調でした。夜遅くまで学校で勉強し、講習会や模擬試験に積極的に取り組んだ成果が表れた結果であります。

二、本校生の進路希望の現状

本校では、一、二年度で年五回、三年次で年三回の進路希望調査を実施しています。ここ数年の傾向として、大学・短期大学への希望者は横ばいで、専門学校希望者が少し増えています。二年次、三年次に進むと、安定した職種である公務員への希望者が増えるのも特徴となっております。

進路指導部は、迫桜生として考え方や行動が一人前となるよう、その成長過程をサポートし、生徒たちの第一希望である進路目標が達成できるよう、今後も積極的に支援してまいります。

在校生の活躍

平成29年度 栗原登米支部総合体育大会

- 卓球部
 - 男子学校対抗 優勝
 - 男子ダブルス 佐々木雄大
 - 男子シングルス 佐藤 永遠
 - 第一位 佐々木雄大
 - 第二位 佐藤 永遠
 - 第三位 佐々木雄大
 - 女子学校対抗 優勝
 - 女子ダブルス 小野寺 楓
 - 女子シングルス 千田紗璃亜
 - 第一位 小野寺 楓
 - 第二位 佐藤 和花
 - 第三位 佐藤 和花
- バドミントン部
 - 男子シングルス 小野寺 祐貴
 - 女子学校対抗 優勝
 - 女子ダブルス 田口 里佳
 - 第一位 田口 里佳
 - 第二位 千葉 花生
 - 第三位 千葉 凜
 - 女子シングルス 遊佐 汐里
 - 第一位 田口 里佳

平成29年度 宮城県総合体育大会

- 卓球部
 - 女子学校対抗第三位
 - 女子ダブルス 佐藤 和花
 - 女子シングルス 千田紗璃亜
 - (東北大会出場)
- 陸上競技部
 - 男子 那須野 紘季
 - 第一位 岩嶋 一馬
 - 第二位 岩嶋 一馬
 - 第三位 秋葉 隆真
 - 第一位 菅原 拓斗
 - 第二位 菅原 拓斗
 - 第三位 菅原 拓斗

平成28年度 栗原登米支部総合文化祭

- 写真部
 - 銀賞・生徒推薦賞
 - 二階堂 彩乃
 - 銅賞 今野 麗奈
 - 銅賞 佐々木 優香
 - 銅賞 太田 彩花
 - 銅賞 千葉 香穂
- 書道部
 - 最優秀賞 富栄 彩奈
 - 優秀賞 千葉 萌香
 - 優良賞 大友 美紀
 - 生徒推薦賞 五十嵐 南友
- 美術部
 - 優秀賞・会員推薦賞 千葉 亜紗美

同窓会役員名簿

役職	氏名	卒業年
会長	菅原 孝	昭34
副会長	佐藤 敬子	昭40
副会長	菅原 恵一	昭37
副会長	鈴木 英克	昭41
副会長	佐藤 哲夫	昭40
副会長	八巻 千治	昭40
副会長	高橋 一男	昭38
副会長	菅原 時晴	昭41
副会長	鎌田 健	昭40
副会長	大場 一夫	昭48
副会長	小野 大介	昭51
副会長	目黒 文男	昭29
副会長	高橋 ひろ子	昭44
副会長	佐々木 健彦	昭47
副会長	阿部 正一	昭42
副会長	阿部 武寿	昭32
副会長	菅原 静悦	昭43
副会長	上上 喜志雄	昭43
副会長	小野 伸男	昭44
副会長	高橋 貞	昭47
副会長	高橋 博	昭47
副会長	白鳥 榮喜	昭47
副会長	千葉 清太郎	昭50
副会長	池田 和子	昭48
副会長	佐々木 浩子	昭58
副会長	本田 亜希	昭14
副会長	高橋 知江	昭24
副会長	熊谷 駿希	昭26
副会長	加賀谷 亮	(学校教頭)

支部	支部長氏名	卒業年
若柳	上山 喜志雄	昭43
金成	阿部 真三	昭37
志波	高橋 清幸	昭31
栗駒	菅原 栄一	昭30
鳥矢	佐竹 栄一	昭30
松崎	鈴木 善久	昭47
尾松	菅原 隆雄	昭34
文松	菅原 英夫	昭37
岩崎	菅原 善久	昭34
鶴崎	菅原 隆雄	昭34
一花	菅原 隆雄	昭34
長崎	菅原 隆雄	昭34
金田	菅原 隆雄	昭34
築山	菅原 隆雄	昭34
宮野	菅原 隆雄	昭34
富野	菅原 隆雄	昭34
瀬野	菅原 隆雄	昭34
石越	菅原 隆雄	昭34
新田	菅原 隆雄	昭34
南田	菅原 隆雄	昭34
北田	菅原 隆雄	昭34
中山	菅原 隆雄	昭34
佐田	菅原 隆雄	昭34
花田	菅原 隆雄	昭34
油井	菅原 隆雄	昭34
永井	菅原 隆雄	昭34
金井	菅原 隆雄	昭34
老井	菅原 隆雄	昭34
日井	菅原 隆雄	昭34
松井	菅原 隆雄	昭34
津松	菅原 隆雄	昭34
仙崎	菅原 隆雄	昭34
一関	菅原 隆雄	昭34
盛岡	菅原 隆雄	昭34
東山	菅原 隆雄	昭34
迫川	菅原 隆雄	昭34

平成二十八年年度迫桜賞の紹介
三浦 稜 士(生徒会長)

●平成二十八年年度 第十六回生(敬称略)
印は代表委員長 〇印は代表副委員長

一組 佐藤 和真(栗原市栗駒)
二組 鈴木 将太(栗原市栗駒)
三組 伊邊 諄(登米市迫町)
四組 菅原 美来(登米市石越町)
五組 高橋 甫(栗原市若柳)
代表 熊谷 有世(一関市花京町)
代表 佐藤 由依(栗原市金成)
代表 坂本 侑也(栗原市瀬峰)
代表 佐藤 明日香(登米市米山町)

原稿募集のお知らせとお願い
迫桜高等学校同窓会報は同窓会総会のご案内を兼ねて発行しています。同期会や同級会の情報や報告はもちろんのこと、高校時代の思い出、迫桜高校に対する思い、迫桜生に対する激励、会員本人の近況、会員の活躍、会員の様々な取り組みなど、同窓会や同窓会員に関することならなんでも結構です。ぜひ同窓会事務局までお寄せいただきたいと思ひます。写真などを添えていただきますと幸いです。
また、締め切りは4月下旬頃ですが、字数や応募方法など詳しいことについては事務局にお問い合わせください。
迫桜高校総務部同窓会事務局
(☎0228-35-1818)

編集後記

同窓会報第十七号が出来上がり、発行に際しまして、原稿をお寄せいただいた皆様、心より感謝申し上げます。今号でも、支部長さん方を通じて各支部で配布をしていただいております。会報を一人でも多くの同窓生に読んでいただき、迫桜高校への窓口や、皆様のご交流の一助となれば幸いです。
今号も読みやすい会報づくりに努めてまいりますので、会員皆様の一層のご協力とご支援をお願いいたします。
(事務局広報担当 堺)

役職等	氏名	備考
顧問	三浦 将昭	第二代会長
顧問	小野寺 千穂子	第三代会長
顧問	佐藤 昭	第四代会長
顧問	高橋 義典	第五代会長
顧問	津花 優	第六代会長
顧問	三浦 孝洋	現 校長
顧問	牛来 生人	現 校長
顧問	菅原 喜美男	(事務部長)
顧問	石川 勝	(学 校)
顧問	今野 英樹	(学 校)
顧問	千葉 健亮	(学 校)
顧問	高橋 健太郎	(学 校)
顧問	堺 友香	(学 校)
顧問	斎藤 陽介	(学 校)